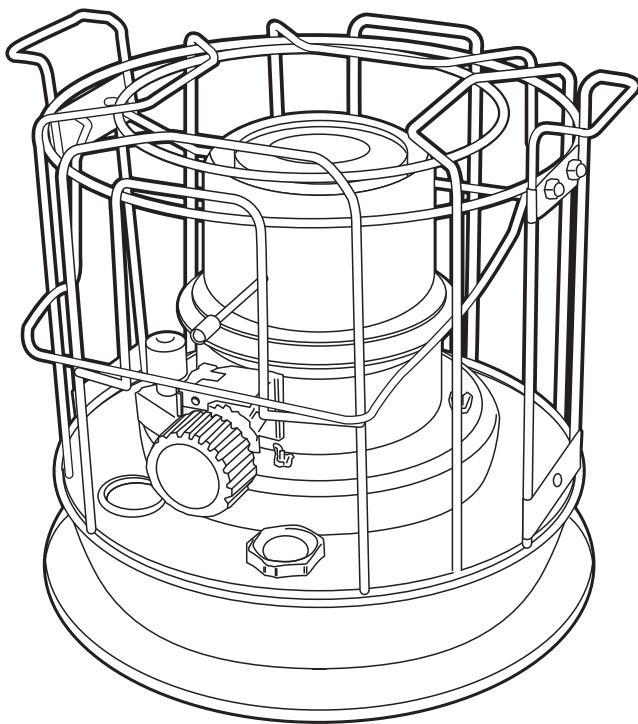


取扱説明書 Ver 1.00

型式KH-002BK スノーピーク タクード

石油こんろ



目次

① 安全のために必ずお守りください	1~3
② 使用する場所	3
③ 各部のなまえ	4
④ 使用前の準備	5~7
本製品を取り出す	5
燃焼筒をセットする	5
置台を固定する	6
燃料	5~6
給油のしかた	7
点火前の準備と確認	7
⑤ 使いかた	8~10
点火のしかた	8
炎の調節のしかた	8~9
消火のしかた	10
⑥ 安全装置	10
⑦ 点検・手入れ	11
⑧ 定期点検	11
⑨ 故障・異常の見分けかたと処置方法	12
⑩ 部品交換のしかた	12
⑪ 保管(長期間使用しない場合)	13
⑫ 廃棄するとき	14
⑬ 仕様	14
⑭ アフターサービス	14
⑮ キャンプで使用する場合	裏表紙

このたびはスノーピーク製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。この製品は、石油こんろです。安全にご使用いただくためにも必ずこの取扱説明書をよく読んでからご使用ください。また、読み終わった後も大切に保管してください。製品は万全を期しておりますが、ご使用する前には安全な場所で組立、取扱い方法及び付属品の確認をしてください。取扱説明書の紛失、取説内容で理解できない点及び製品に不具合が確認された際には、ただちに使用を中止しご購入いただきました販売店または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

危険



ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油
KEROSENE ONLY

注意

変質した持ち越し灯油
使用 厳禁

警告



換気必要
1時間に1~2回



衣類乾燥厳禁
寝るとき消火
給油時消火

① 安全のために必ずお守りください

- お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
- ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険 (DANGER)

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告 (WARNING)

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 (CAUTION)

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。



この絵表示は、「禁止」されている内容です。



この絵表示は、「注意」していただく内容です。



この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

- 説明文中の「お願い」、「お知らせ」事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠ 危険 (DANGER)

ガソリン使用禁止

- ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。(④ 使用前の準備 燃料 参照)



⚠ 警告 (WARNING)

換気必要

- 換気せずに使用しつづけないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
- 換気する場合は、換気扇を使用したり(換気扇を使用する場合は、離れた位置の窓を開けないと十分な換気ができない場合があります。)2カ所以上の(風の出入りのある)開口部を設けると効率よく換気できます。窓が凍結していたり、地下室などで換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。



スプレー缶厳禁

- スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、本製品の上や周囲に放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。



禁止

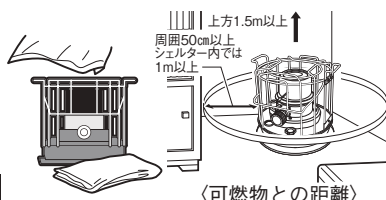
給油時消火

- 給油は、必ず消火していることを確認し、本製品の温度が充分に下がってから、他に火の気がない所でおこなってください。火災の原因になります。
- シェルター内では給油しないでください。



可燃物近接厳禁

- カーテン、布団、毛布などや燃えやすいもののそばでは点火や使用をしないでください。火災の原因になります。
- 可燃物とは図に示す距離を確保してください。
- ※キャンプにてシェルター内でご使用される際の禁止事項については ⑮ キャンプで使用する場合 の項を参照してください。



禁止

空だき厳禁

- なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。空だきすると内部に熱がこもって火災の原因になります。



禁止

衣類の乾燥厳禁

- 衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、本製品の熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。



禁止

可燃性ガス使用厳禁

- 本製品を使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。



使用禁止

寝るとき消火 ※外出するとき消火

- 寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。また、人目の届かないところでは、使用しないでください。火災など予想しない事故が発生するおそれがあります。



消火

調理中は本製品から離れない

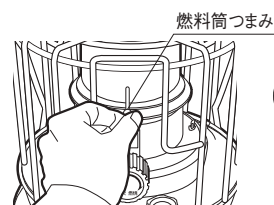
- 煮物等調理したまま、本製品から離れないでください。食材がこげたり燃えたりして火災の原因になります。
- 本製品から離れる場合は、いったん火を消してください。



禁止

燃焼筒は正しくセットする

- 点火操作後、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しく、しん調節器にセットされているか、しんの上ののっていないかなどの燃焼筒のすわりを必ず確かめてください。燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。マッチで点火した場合は、燃焼筒が正しくセットされていることを確認し、マッチの燃えかすをしん付近や器具内に落としたり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、本製品及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。



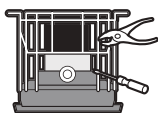
確認

① 安全のために必ずお守りください

⚠ 警告 (WARNING)

改造使用の禁止

- 改造して使用しないでください。
安全装置の無効化など本製品の安全性を損なう改造は、火災など思わぬ事故の原因になります。



禁止

火起しの禁止

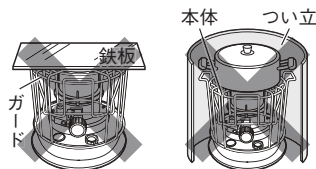
- 本製品で炭の火起しは絶対にしないでください。
内部に熱がこもり異常燃焼するおそれがあります。



禁止

内部に熱がこもる使いかた禁止

- ガードの上に製品より大きい鍋や鉄板を直接のせて上面をふさいだり、つい立などを使い製品周りを囲んだりしないでください。
内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。



禁止

⚠ 注意 (CAUTION)

燃焼中移動禁止

- 火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。
また、転倒すると火災になるおそれがあります。



禁止

異常・故障時使用禁止

- 油漏れやにおい、すすの発生、炎の状態など異常や故障と思われるときは、使用しないでください。
事故の原因になります。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げたて消火してください。
(⑨ 故障・異常の見分けかたと処置方法 に従って処置してください。)



使用禁止

移動・運搬するときの注意

- 本製品を移動する場合は、必ず消火し、本製品の温度が充分下がってから、傾けないように静かに移動してください。
- 修理・引越などで、本製品を運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれて、周囲を汚すおそれがあります。



指示

大なべ禁止

- 製品の外周からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。
内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
- 不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。
転倒するおそれがあります。



禁止

高温部接触禁止

- 燃焼中や消火直後は、高温部、ガードや燃焼筒に手などふれないように注意してください。
- やかんやなべの取っ手は、加熱している場合もありますのでやけどに注意してください。



接触禁止

高温部に注意

- 燃焼中や消火直後は、燃焼筒の上部から高温の熱気が出ています。手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。



高温注意

煮こぼれ注意

- 煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。
こぼれ汁が、しんや感震部にかかりますと、火が着きにくくなったり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。



注意

ほこりの除去

- 燃焼部周辺や置台、製品内部のほこりをときどき掃除してください。
油タンクの下から燃焼用空気を吸い込みますので、紙やビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりが堆積すると、異常燃焼や火災の原因になります。



指示

風のあたる場所で使用禁止

- 屋外や部屋の出入口など、風のあたる場所では使用しないでください。
異常燃焼を起こすおそれがあります。



使用禁止

安全装置の作動確認

- 使用開始時と、使用中は1ヶ月に1回以上、および誤って煮こぼれをした場合は、対震自動消火装置を作動させて、確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、弊社ユーザーサービスに修理を依頼してください。



確認

純正部品の使用

- しんなどの部品は、必ず純正部品(指定された部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、本製品の性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。



指示

① 安全のために必ずお守りください

⚠ 注意 (CAUTION)

不良灯油使用禁止

- 変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。異常燃焼や故障(しんが下らない、点火できない、火が消えない)の原因になります。
(④ 使用前の準備 燃料 参照)



禁止

点火前の注意

- 使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って、点火してください。しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。



注意



指示

分解修理の禁止

- 故障、破損したら使用しないでください。
- 部品が欠品した状態では使用しないでください。
- 不完全な修理は危険です。
- 日常の点検・手入れに関する部分は分解修理に該当しません。
- しんや燃焼筒などのお手入れを行う場合は、必ず⑦点検・手入れ ⑨故障・異常の見分けかたと処置方法 ⑩部品交換のしかたを参照して作業を行ってください。



分解禁止

お子様やお年寄りのご使用に注意

- お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、本製品の取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけど、低温やけど、脱水症状などについて、周囲の人が十分に注意してください。



指示

保管時にしていただくこと

- 長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜いてください。傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。火災のおそれがあります。
- しんの手入れ(から焼クリーニング)は、風が当たる場所ではおこなわないでください。火災のおそれがあります。(⑪ 保管 参照)



指示

廃棄するとき

- 本製品を廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を抜き取ってください。
(⑪ 保管 参照)
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、思わぬ事故が発生するおそれがあります。



指示

次の場所では使用しない 火災や予想できない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しい所では使用しないでください。対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりした安定した場所で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上などで使用しないでください。転落したり、火災になるおそれがあります。

暖炉など本製品が囲われる場所

- 暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使いかたをしないでください。火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

- 粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。燃焼用空気を取り入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

- 爆発や火災の原因になります。

不安定な物をのせた棚などのそば

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

- 異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口、屋外

- 風のあたる場所や屋外では使用しないでください。炎が出て危険です。掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまづく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。



使用禁止

温室・飼育室など人のいない場所

- 使用環境の変化で、火災など予測しない事故が発生するおそれがあります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

- 化学薬品が本製品の熱で変化し、本製品の故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。

船舶や車両、特殊な場所

- 船舶や車両に搭載したり、暖炉や押入れに入れて使用したり、温室や業務用の使用など、特殊な場所での使用はおこなわないでください。火災の原因になります。

高地(1300m以上の場所)

- 酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。

スノーピーク製「シェルター」製品内以外での使用禁止

- スノーピーク製以外の「シェルター」、スノーピークを含む全てのテント、タープ類内部で使用しないでください。一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。

お願い (NOTICE)

灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

結露に注意

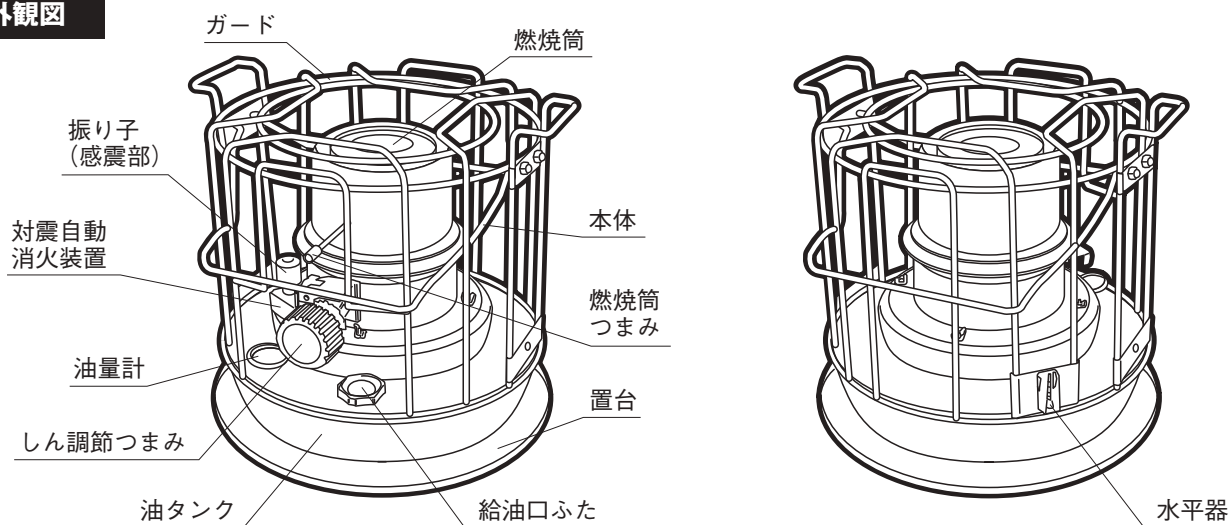
- 本製品は室内で燃焼するため、気密の高い部屋などでは、換気を十分にしてください。換気をしていないと、壁や天井に結露してカビが発生する場合や、結露によってパソコンや電気機器等に障害が生じるおそれがあります。

② 使用する場所

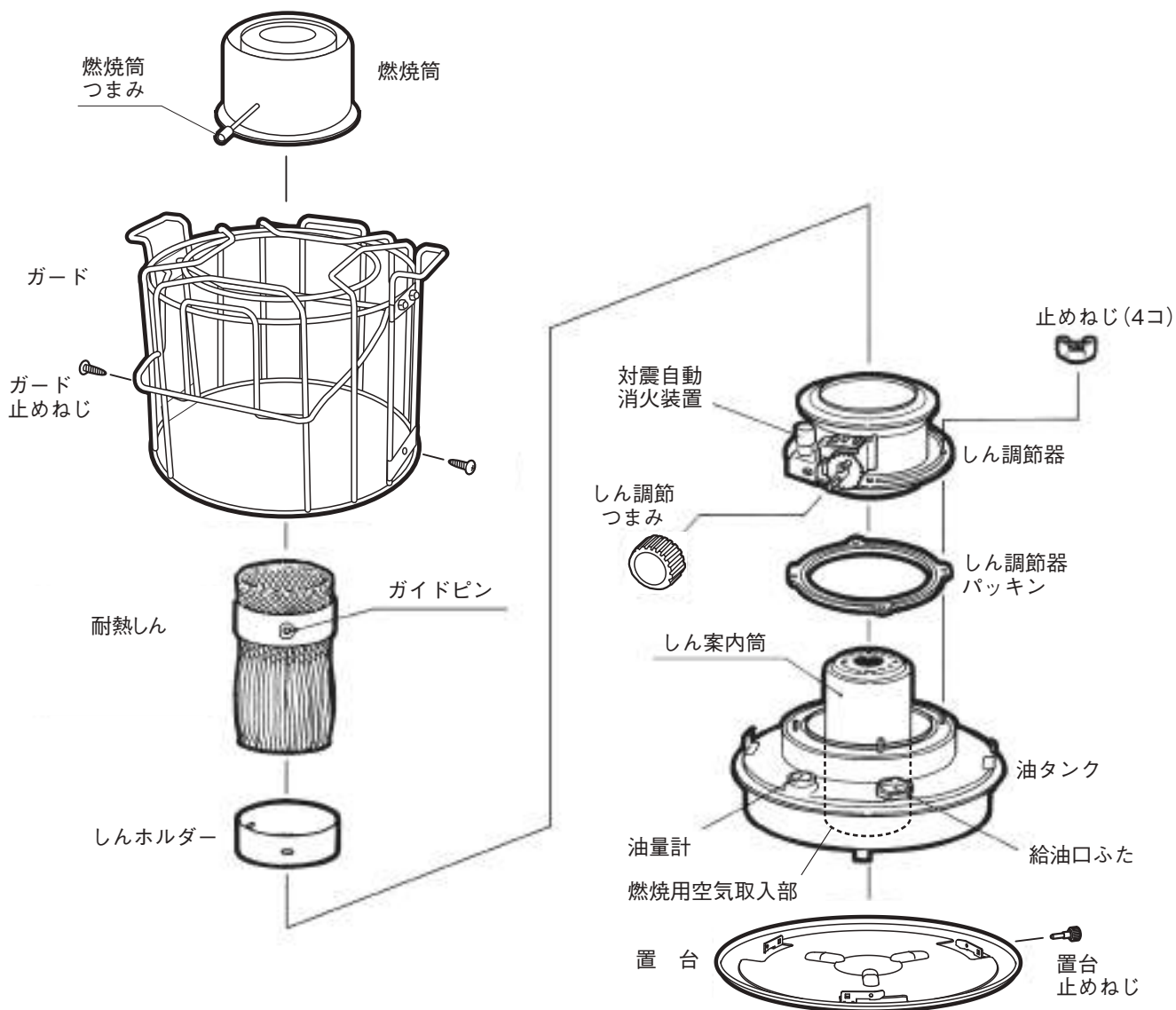
- 安定した水平な台の上などに置いてください。
- 人がぶつかったりしない場所に置いてください。
- 風が当たる場所や屋外では使用しないでください。

③ 各部のなまえ

外観図



構造図



お願い 耐熱しんに、灯油の燃えかす(タール)が多量に付着しますと、しんが下がらなくなったり点火しにくくなったりします。
① 保管 「3 しんの手入れをする」を参照して、しんのから焼きクリーニングをしてください。

④ 使用前の準備

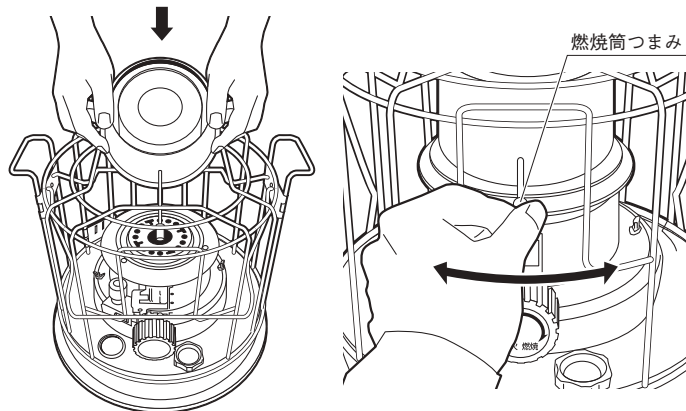
本製品を取り出す

- ① 包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで、包装箱から包装材などを取り除き、製品を傷つけないように取り出してください。
包装箱や包装材は本製品を保管するときに必要です。取扱説明書も忘れずに保管してください。

お願い 包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。
燃焼筒の端面に手、指などふれないようにしてください。

燃焼筒をセットする

- ① 燃焼筒を、しん調節器の上に正しくセットしてください。
- ② 燃焼筒つまみを左右に2～3回動かして、燃焼筒が正しくセットされているか、しんの上になっているかを確認してください。



燃 料

⚠ 危険

ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。



■燃料は灯油(JIS 1 号灯油)を必ず使用してください。

■不良灯油(変質灯油、不純灯油)は、絶対に使用しないでください。

- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときは、あわてずに対震自動消火装置の振り子(感震部)を押して消火してください。

■不良灯油(変質灯油、不純灯油)とは

変質灯油とは

- 昨シーズンより持ち越した灯油。
- 温度の高い場所で保管した灯油。
- 日光の当たる場所で保管した灯油。
- 乳白色のポリタンクで保管した灯油。
- 灯油用ポリタンクのふたが開けてあった灯油。



不純灯油とは

- 水やごみなどが混入した灯油。
- ガソリン、軽油、シンナー、天ぷら油、機械油などが混入した灯油。
- 灯油以外の油を入れたことのある容器に保管した灯油。
- 水抜剤や助燃剤を添加した灯油。



■正しい灯油の保管方法

- 灯油は屋内の冷暗所で保管してください。
- 火気、雨水、ごみ、高温、日光を避けた場所で、保管してください。
翌シーズンに持ち越さないようにしてください。
- 紫外線を通しにくい色付きの灯油用ポリタンク(推奨マーク付)を使用してください。
乳白色のポリタンク(水用)は使用しないでください。
ふたはしっかり閉めて保管してください。
但し、灯油は紫外線だけでなく温度でも変質するので推奨マーク付の灯油専用容器でも日なたに放置しないでください。
日なたに放置すれば変質灯油になってしまいます。



灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます。
(火の気のない所でおこなってください。)

○ 灯 油

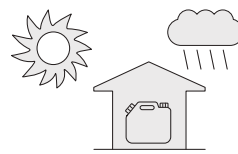


× ガソリン



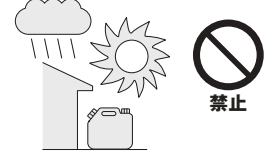
良い保管

直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管。



悪い保管

直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管。

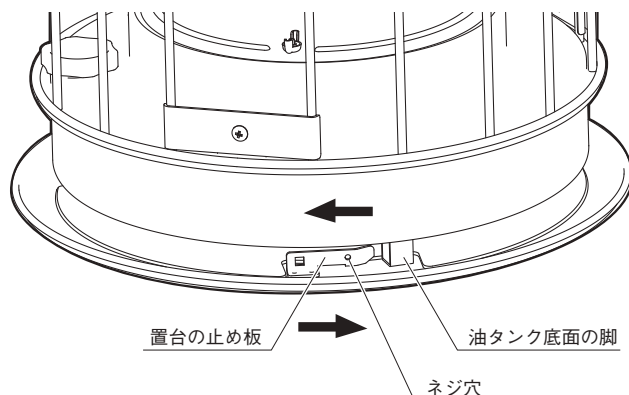


④ 使用前の準備

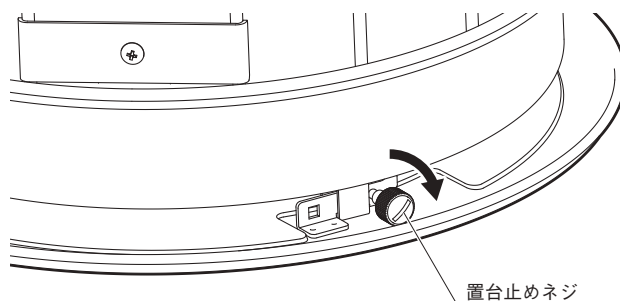
置台を固定する

お願い 必ず置台を取り付けて使用してください。

- ① 油タンク底面の脚(3箇所)を置台の止め板(3箇所)に回して引っかけ、固定してください。
必ず3箇所とも引っかけてください。



- ② 置台の止め板1箇所(1箇所)に置台止めネジ(1個)を取り付けてください。置台の止め板3箇所のうち、どこに取り付けても構いません。

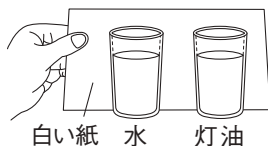


お願い 製品の輸送中に生じた燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどが無いかなどを調べてください。

■不良灯油(変質灯油・不純灯油)の見分けかた

- まずは、灯油が正しい保管状態であったかどうか確認してください。
- 次に、色で見分ける方法があります。
2つのコップを用意し、片方には水、もう片方には灯油を入れます。その2つのコップの背後に白い紙をあて色を比較し、灯油に色がついていたら、変質灯油の可能性が有ります。変質灯油になるとうす黄色をおびた色になったり、すっぱい臭いがしたりします。(保管状態によっては、変色していなくても灯油が変質している場合があります。)また、水が混入した不純灯油の場合は、水が下にたまり、灯油と水が分離した状態になります。

保管期間が短く、
水と同じ無色透明なら正常。



少しでも色がついていたら
使用しない。



変質灯油や不純灯油などの 不良灯油を使用すると

- 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用しますと、灯油の程度にもよりますが、1~30日のご使用でしんに多量のタールがたまり、しんの先端が固くなったり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくななくなったり、激しいにおいがしたりします。また、消火時にしんが下らず火が消えなくなります。
- 水の混入した灯油を使用しますと、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなったり、しんが上下しにくくなったり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。

万一変質灯油や不純灯油などの不良灯油を 使ったときの処置のしかた

- ① 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2~3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
(悪い灯油が残っていると再発します。)
灯油の抜き方は ⑪ 保管 「1 油タンク内の灯油を抜く」を参照してください。
- ② ⑪ 保管 「3 しんの手入れをする」を参照して、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、しんのから焼きクリーニングをおこなってください。
- ③ しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
替えしんについては、販売店、または、弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

お願い 変質灯油や不純灯油などの不良灯油が原因で、故障した場合の修理については、有料修理となりますのでご了承ください。

④ 使用前の準備

給油のしかた

警告

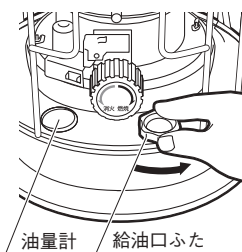
給油時消火

給油は、必ず消火していることを確認して、本製品の温度が充分に下がってから、他に火の気のない所でおこなってください。
火災の原因になります。



①給油口ふたを開ける。

給油口ふたを、左「」に回して開けてください。

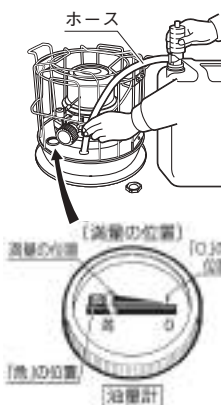


②油量計を見ながら給油する。

●市販の給油ポンプの先端を止まるまで軽く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。(ホースが抜けないように手で固定しながら給油してください。)

●灯油は、油量計の「満」の位置まで給油してください。

「危」の位置まで入れ過ぎますとあふれ出ることがありますので充分に注意してください。



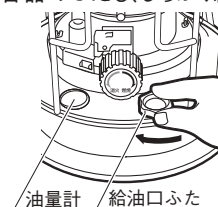
お願い ●オート給油ポンプを固定する場合は、ホースを油タンクにクリップで固定できないので、必ず、ホースが給油口から抜けないように手で固定しながら使用してください。

●オート給油ポンプの「満量位置」の調節は、ポンプの取扱説明書に従っておこなってください。

③給油口ふたをしっかりとめる。

●給油口ふたを右「」に回してしっかりと締めてください。

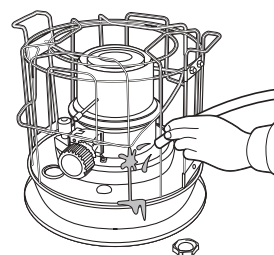
●灯油容器のふたも、しっかりと締めておいてください。



④こぼれた灯油はよくふき取る。

●油タンクの給油口より下に灯油をこぼしてしまった場合、臭気の発生する原因、予想外の事故につながる原因になりますので、よくふき取ったうえでご使用ください。

●油タンクの給油口より上に灯油をこぼしてしまった場合、またはこぼれた箇所が判明しない場合は、思わぬ事故や火災の原因になります。燃焼筒やしん調節器の内部に灯油が入っている可能性がありますので、分解せずに、ふき取り後、販売店または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。



給油の目安

本製品を使用するときは、ときどき油量計を見て、灯油があるかどうか確認し、油量計の針が「0」を示す前に給油してください。

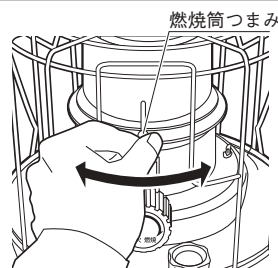
点火前の準備と確認

点火前の確認

- 本製品の上方や周囲、置台の上に、布類や紙やマッチなど、可燃物がないことを確認してください。
可燃物があると火災のおそれがあります。
- 本製品が水平で安定した場所に設置してあることを確認してください。

燃焼筒のセットを確認する

点火操作をする前には、必ず燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているかどうか、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かして、スムーズに動くことを確認してください。

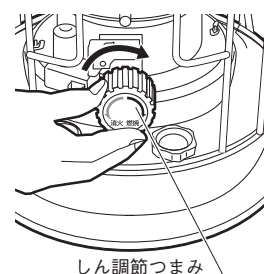


対震自動消火装置のセット

しん調節つまみを、「燃焼」の方向()に、ゆっくり止まるまで回しますと、対震自動消火装置が自動的にセットされます。

対震自動消火装置がセットできない場合は、いったんしん調節つまみを「消火」の方向()へ回してからおこなってください。

それでも対震自動消火装置をセットできない場合は、使用をただちに止め、お買い求めの販売店、または弊社ユーザーサービスに修理依頼をしてください。



⑤ 使いかた

点火のしかた

⚠ 注意

点火前の注意

- 使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待つて、点火してください。
- しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。
- 燃焼筒は、必ず正しくセットされている事をご確認ください。燃焼筒がズレているとすすが発生したり、異常燃焼をするおそれがあります。



注意

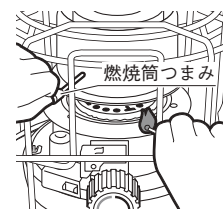
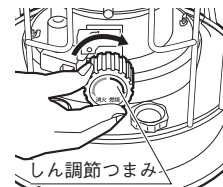


指示

初めてお使いになるときは、点火後、こんろに付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければ、においはなくなります。

① しん調節つまみを「燃焼」の方向へゆっくり回す。

- しん調節つまみを「燃焼」の方向(→)に、ゆっくり完全に止まるまで回してください。(しんが上がります。)
- しん調節つまみが、止まらずに戻ってしまう場合は、いったんしん調節つまみを「消火」の方向(←)へ回してください。回せない場合や硬い場合は、しんにタールがついています。しんの手入れ(から焼きクリーニング)または、新しいしんと交換してください。



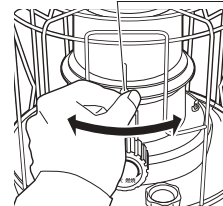
燃焼筒つまみ

② マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- 燃焼筒つまみを持ち上げ、マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
- マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、本製品及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。
- たばこ用のライターでは点火しないでください。
- マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすをしん付近や本製品内に落したり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。

③ 火が着いたことを確認し、燃焼筒のセットを確認する。

- 火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上ののっていないかなどの燃焼筒のすわりを必ず確かめてください。
- 燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。
- 火が着いたことを確認したら、しん調節つまみを少しだけ(点火した火が消えない程度に)消火の方向に回してみ、引っこたなくスムーズにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。
- しん調節つまみがスムーズに回らないときは、燃焼筒を持ち上げて、しんを完全に下げてから、点火操作を始めからやり直してください。



炎の調節のしかた

炎の調節

- 炎の調節は、しん調節つまみを回しておこなってください。
- しん調節つまみを回して炎を調節するときは、**炎の状態** のイラストをよく見て、必ず正常燃焼の状態で使用してください。

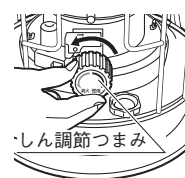
炎の状態

正常燃焼のときの炎の長さは、拡炎板から0～2cmです。

異 常	正 常	異 常
しんの上げすぎ (拡炎板から黄炎が大きく出る状態)	正常燃焼	しんの下げすぎ (拡炎板から炎が出ていない状態)
すすやー酸化炭素が 多く発生する	拡炎板から炎が0～2cm 出る状態	においやー酸化炭素が 多く発生する

■ 炎の大きさは上図のように、正常燃焼の状態でご使用ください。

- 点火後、しばらくすると拡炎板から炎が出て、全周ほぼそろいます。
- 部分的に炎の伸びなどがあるときは、燃焼筒つまみを持って左右に軽く2～3回動かしてください。
- 拡炎板から黄炎が大きく出る状態(しんの上げすぎ)のときは、しんを下げて正常燃焼の状態に調節してください。
- 燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。
- しんが上がりすぎていたり、燃焼筒がずれていると、すすが出て、異常燃焼を起こして危険です。



⑤ 使いかた

調理時の注意

⚠ 警告

空だき厳禁

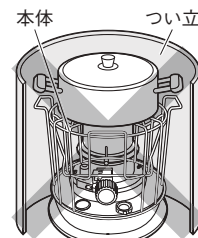
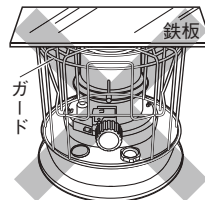
なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。
空だきすると内部に熱がこもって火災の原因になります。

衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、本製品の熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。

内部に熱がこもる使いかた禁止

ガードの上に製品より大きい銅や鉄板を直接のせて上面をふさいだり、
つい立などを使い製品の周りを囲んだりしないでください。
内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。



禁止



禁止



禁止

⚠ 注意

大なべ禁止

- 製品の外周からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。
内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
- 不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。
転倒するおそれがあります。

煮こぼれ注意

煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。
煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかると、火が着きにくくなったり、しんが
下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。

風のあたる場所では使用禁止

屋外や部屋の出入口など、風のあたる場所では使用しないでください。
異常燃焼を起こすおそれがあります。



禁止



注意



禁止

- ガードの上にのらない、小さななべやかんを使用しないでください。

燃焼筒の上に直接なべ、やかんなどをのせないでください。

なべやかんを燃焼筒の上にのせると、異常燃焼を起こします。

- なべや、やかんをのせたときには、必ず火力の調節をしてください。

なべ等をかけて数分たったら、黄火が出ないようにしん調節つまみを「消火」の方向(↺)に回して、しんを下げ
調節してください。

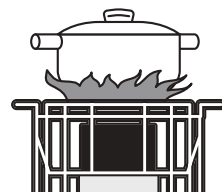
最大火力のままで、なべや、やかんをのせると、炎の出る所がなべ等の底で制限され、火力が余って黄火やすの
出ることがあります。また、なべよりも大きな炎で使用するとはみだした炎により、なべなどの取っ手が過熱され、やけどや取っ手の焼損の原因に
なります。

- 燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。

- 煮こぼれをしないように注意してください。

- なべの種類によっては、傾いたり、すべりやすいものがあります。不安定な状態では使用しないでください。中華なべなどの底の丸いなべは、
必ずなべの取っ手を持ちながら使用してください。

- しんを上げて火力を強くする場合には、炎が一時的にのびて、なべやかんの底にすすがつくことがありますので、ゆっくりとしんを上げて調節して
ください。



火力を弱くする場合の注意

- 火力をあまり弱くして、拡炎板から炎の先端が出ていない状態のとろ火で燃焼しますと、本製品内に熱がこもり、においがしたり
本製品のいたみを早めたりします。またしんにタールが付着し消火時間が長くなります。

- 炎の大きさは、使用時間の経過につれて燃焼筒の酸化、耐熱しんの劣化によって小さくなってきます。
しん調節つまみを回してしんをいっぱい上げても、燃焼筒やしんの劣化などで炎が大きくなるときは、⑪ 保管 「3 しんの手入れをする」の
項を参照して、しんの手入れをしてください。

- 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用してしまい、しんにタールが付着したり、水を含んでしまったときは、炎が大きくなるとともに、
しんの上下操作が重くなります。このようなときは、⑪ 保管 「3 しんの手入れをする」の項を参照してしんの手入れをしてください。

⑤ 使いかた

消火のしかた

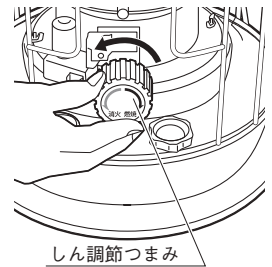
通常の消火の場合

- ① しん調節つまみを「消火」の方向へゆっくりと回す。
しん調節つまみを、「消火」の方向(↺)にゆっくり止まるまで回してください。
(速く回すとにおいが出やすくなります。)

⚠ 注意

高温部に注意

消火直後は燃焼筒の上部から高温の熱気がでています。
手や顔などを近づけないでください。やけどのおそれがあります。



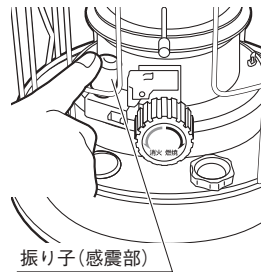
しん調節つまみ

② 消火を確認する。

- においを少なくするため、約1～5分程燃焼(炎が一部残る)して消火します。
- 火が消えたことを、必ず確認してください。
- 消火時間が長いときは、対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒して消火してください。

緊急の消火の場合

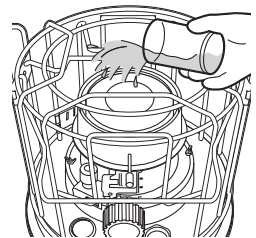
- 対震自動消火装置の振り子を押し倒す。
対震自動消火装置の振り子(感震部)を、押し倒してください。
火が消えたことを必ず確認してください。
- このとき急速に消火させるため、「ポッ」と言う消火音と共に炎が伸びたり、すすやにおいが発生することがあります。
- 対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒しても、しんが下がらず消火できない場合は、しん調節つまみを回して、しんを下げてください。
それでもしんが下がらない場合は、火が消えるまで燃やしきってください。
- 時間に余裕がない場合は、燃焼筒の上にコップ1杯(200ml程度)の水をかけて消火してください。
その際、必ず調理中の鍋やフライパンを取り除いてください。特に天プラ油などに水が掛ると大変危険です。



振り子(感震部)

水をかけると水蒸気が出たりします。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。水をかけたことで、油タンク内に水が入ったり、しんが水を含んだりします。後でメンテナンスが必要です。

しんを下げられない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、
① 保管 「3 しんの手入れをする」の項を参照してしんの手入れをおこなうか、新しいしんに交換してください。



お願い 消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気が出たり、点火しないことがあります。

⑥ 安全装置

対震自動消火装置

- 本製品が地震(震度約5以上)や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。
- しん調節つまみを「燃焼」の方向にゆっくりと止まるまで回すと、自動的にセットされます。
- 地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、灯油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。

お願い 燃焼中に、対震自動消火装置が働いた場合は、消火時のにおいが強く発生します。

⑦ 点検・手入れ

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

- 本製品を消火し、本体の温度が充分に下がってからおこなってください。
- 手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- 対震自動消火装置の取りはずし、分解は絶対におこなわないでください。

使うたびに

点検箇所	点検内容	処置方法
本製品の周囲	●本製品の周囲に可燃物や障害物はありませんか。 [火災の原因になります]	●常に整理、掃除をし可燃物を本製品の周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、置台の表面に油がこぼれたり、たまったり、にじんでいませんか。 [火災の原因になります]	●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。
油漏れ	●油漏れはありませんか。 [火災の原因になります]	●油が漏れている場合はすぐに使用をやめ、お買い求めの販売店、または、弊社ユーザーサービスに修理依頼をしてください。

1ヶ月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
ほこり 燃焼用空気取入部 (しん案内筒下部)	●置台にほこりがたまっていませんか。 ●油タンクの下に隙間に紙やビニールなどが入り込んでいませんか。 [異常燃焼や火災の原因になります]	●置台を取りはずし、たまったほこり、ごみなどを掃除機で吸い取ったり、雑巾などでふき取ってください。 (⑪ 保管 参照)
対震自動 消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動し、そのときしんが下がりますか。 [確実に消火することを確認]	●しんが完全に下がらない場合は、しんの項の点検をしてください。 ●販売店、または弊社ユーザーサービスに修理依頼をしてください。
油タンク	●油タンクの中に、水やごみがたまっていませんか。 [不完全燃焼したり、火が消えてしまいます] [しんが上下しにくくなります] [灯油が変質する恐れがあります] [タンク内がサビることがあります]	●給油口ふたをはずして、市販の給油ポンプなどで、油タンクの中の水やごみを吸い出してください。 (⑪ 保管 参照)
燃焼筒	●燃焼筒の細かい穴に、燃えかすやすすが付着していませんか。 [異常燃焼の原因になります]	●ブラシなどを使って、燃えかすやすすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 ●しんに煮こぼれ汁が付着していませんか。 しんにタールが付着していたり、煮こぼれ汁が付着していると、次のような不具合が発生します。 ●消火操作をしても、しんが下がらない。 ●しん上下の操作が重く、スムーズにできない。 ●点火操作をしても点火しない。 ●炎が大きくならなかったり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、⑪ 保管「3 しんの手入れをする」に従って、しんの手入れをおこなってください。 お願い ●しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。 ●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をしてください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。

⑧ 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、販売店、弊社ユーザーサービス(TEL.0120-010-660)、修理資格者[(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など]のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

⑨ 故障・異常の見分けかたと処置方法—修理を依頼される前に—

故障・異常箇所	現象		点火しない・しにくい	炎が大きくならない・消えてしまう	赤火や、すぐが出て燃える	消火しない・しにくい	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	処置方法
	原因											
しん	しんの出過ぎ。				○		○					しんを下げて、炎を調節する。
	しんの出が少ない。		○	○			○				○	新しいしんと交換する。
	しんに水を含んでいる。 油タンクに水が入っている。		○	○					○	○	○	しんの手入れをする。または新しいしんと交換する。 油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。
	しんにタールがついている。		○	○		○	○		○	○	○	
燃焼筒	燃焼筒がしんの上ののっている。				○		○	○	○			点火してから必ず燃焼筒つまみを左右に2～3回動かす。
	燃焼筒の変形。				○		○	○				燃焼筒の下部がうまく揃っているかを確認する。 (揃いが悪い場合は販売店に連絡する。)
	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。				○		○	○				しん調節器の上面にタールがついていない、 または燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。
燃料	灯油が変質している。(汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など)		○	○		○	○		○	○	○	正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。
	灯油が水やごみを含んでいる。		○	○					○	○	○	正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。
置台	置台に、ごみ、ほこりがたまっている。				○							置台を掃除する。

この表以外の不具合があるときや、処置方法により処置をしても良くならないときは、使用を中止し、お買い求めの販売店または弊社ユーザーサービスにご相談ください。

⑩ 部品交換のしかた

- しんなどの交換部品は、必ず純正部品(指定された部品)を使用してください。
- 替えしん、燃烧筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店、または、弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

部品交換のときの注意

- ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけど、けがなどしないよう注意しておこなってください。
 - ①手をやけどしないように、本製品は消火し、温度が充分に下がるまで待ってください。
 - ②手をけがしないように、手袋をはめてください。
- 不完全な修理は危険です。お買い求めの販売店か、弊社ユーザーサービス、または(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします。

しんの交換のしかた

しんの交換方法・注意内容は、耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。



検査に合格したしんにはこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

燃烧筒の交換のしかた

燃烧筒の構成部品が、変形していたり、燃烧筒の下部がうまく揃っていない場合は、お買い求めの販売店、または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

⑪ 保管(長期間使用しない場合)

⚠ 注意

保管時にいただくこと

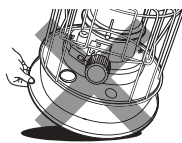
長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。



お知らせ 油タンクに入っている灯油を完全になくなるまで燃やしきっていただければ、灯油を抜く必要はありません。

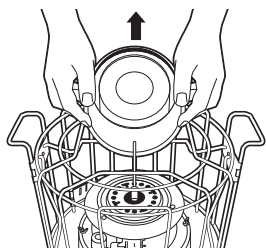
①油タンク内の灯油を抜き取る。

- 油タンクの給油口ふたをはずし、市販の給油ポンプの吸込側を油タンクに差し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。
- 油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、錆や油漏れの原因になります。
きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。
- 決して本体を傾けて直接灯油を抜き取らないでください。
灯油が思わぬところに入り込み故障や事故の原因になります。



②燃焼筒を取り出す。

ガード上部から燃焼筒を取り出してください。



③しんの手入れをする。(から焼きクリーニング)

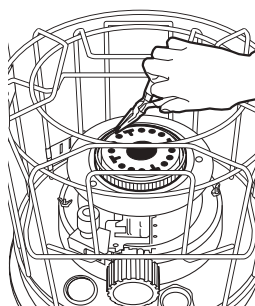
お願い ●しんの手入れは、風が当たる場所ではおこなわないでください。
●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。

●しんの手入れ

(から焼きクリーニング方法)

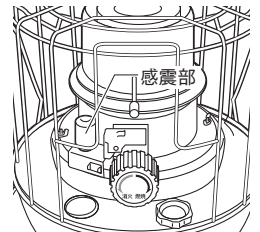
しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。

- ①前項1の手順で油タンクの灯油を抜き取ってください。
- ②燃焼筒をしん調節器の上に正しくのせてください。
- ③通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。
- ④火力が小さくなったら、自然に消火するまで燃やしきってください。



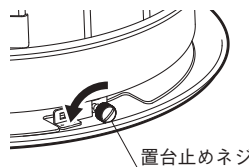
感震部の点検・手入れをおこなう

- ごみやほこりがついていたら、やわらかい布できれいにふき取ってください。
- 錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店または、弊社ユーザーサービスに修理を依頼してください。
- 本製品内の汚れは濡れた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

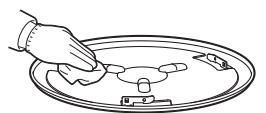
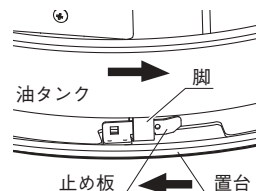


④置台を取りはずし掃除する。

置台止めネジをはずしてから油タンクを矢印の方向に回して置台を取りはずし、置台の上にたまったほこりや汚れを取り除いてください。
置台をもとどおりに取り付けてください。
(取り付け方は④ 使用前の準備 6ページを参照してください。)



置台止めネジ



⑤対震自動消火装置を作動させる。

対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

⑥収納する。

包装箱に入れ、湿気の少ない場所に保管してください。
「取扱説明書」も忘れずに大切に保管してください。

お願い ●高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。

- 錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。
- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

●灯油は変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない(使いきる)ようにしてください。

⑫ 廃棄するとき

⑪ 保管 の1項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取ってから、各自治体の指導に従って廃棄してください。

⑬ 仕様

型 式 の 呼 び	KH-002BK	外 形 寸 法	高 さ	334mm
種 類	石油こんろ	(置台を含む)	幅	371mm
	しん式・煮炊用・屋内用		奥 行	358mm
点 火 方 式	マッチ点火	質 量		約6kg
使 用 燃 料	灯油(JIS1号)	しん	種 類	普通筒しん
燃 料 消 費 量	2.15kW(0.209L/h)			耐熱しん
こ ん ろ 効 率	50%		内 径	105mm
出 力	2.15kW		厚 さ	3.2mm
油 タ ン ク 容 量	3.1L	安 全 装 置	吸上量	180%
燃 焼 継 続 時 間	約15時間			対震自動消火装置(しん降下式)

⑭ アフターサービス

お願い 次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんので注意してください。

- (1) 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
- (2) ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかなかったために起こった故障や事故。
- (3) 純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったりしたことによる故障。
- (4) 消耗品(しん)の故障。
- (5) この取扱説明書や、本体貼付ラベル類による危険・警告・注意・お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。

品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期しますが万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正な価格で修理させていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合には保証、修理できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

1. 取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
2. 素材の経年劣化による製品の寿命。
3. 改造及び粗雑な扱いによる製品の故障。
4. 不測の事故による製品の故障。
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
6. ゴミやサビによる故障。
7. 分解したことによる不具合の発生または破損。
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
9. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
10. 他社製品との組合せによる故障。

修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、汚れをきれいに落としてください。
- 灯油は必ず抜いてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
 1. 保証対象の場合：往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
 2. 保証対象以外の場合：往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

15 キャンプで使用する場合

危険 (DANGER) 明らかに生命に関わる重大な事故が予測される行為を示します。

注意 (CAUTION) 人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

キャンプで使用する場合は、以下の内容を必ず守り、安全に正しくお使いください。

また、キャンプで使用する場合でも、項目 ① ～ ⑭ の内容は同様です。本説明書をよくお読みの上、お使いください。

危険 (DANGER)

スノーピーク製のシェルター・2ルームシェルター内、限定使用

- お使いいただける製品は、スノーピーク製のシェルター(リビングシェルなど)・2ルームシェルター(ランドロックなど)に限ります。他社製品やテント・タープ内での使用は禁止です。
- お使いいただけるシェルターや2ルームシェルターの具体的な製品は、弊社ホームページ、もしくはアウトドアカタログを参照ください。

お使いいただける製品

使用OK



シェルター



2ルームシェルター

- シェルター・2ルームシェルター内でご使用ください。

お使いいただけない製品



使用NG



テント



タープ



側面にパネルのあるタープ

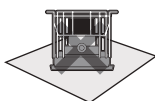
- テント内での使用は酸素不足による不完全燃焼のおそれがあり危険です。絶対に使用しないでください。
- タープ(側面にパネルのあるタープも含む)内での使用は、風の影響により異常な炎が出て危険です。絶対に使用しないでください。



禁止

シート・マット上での使用は禁止

- シートやマット上で使用しないでください。引火のおそれがあり危険です。



使用禁止

風や雨のあたる場所、野外での使用は禁止

- 風や雨のあたる場所や野外では使用しないでください。炎が出て危険です。
- スノーピーク製のシェルター(リビングシェルなど)・2ルームシェルター(ランドロックなど)内でご使用ください。



使用禁止

インナーテント内での使用は禁止

- インナーテント内では使用しないでください。インナーテント内での使用は酸素不足による不完全燃焼のおそれがあり危険です。絶対に使用しないでください。



使用禁止

換気必要

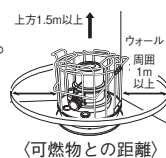
- 換気せずに使用しつづけないでください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。



換気

可燃物近接厳禁

- シェルターや2ルームシェルターのウォールから周囲1m以上、上方1.5m以上の距離をとり、点火や使用をしてください。
- ドアパネル付近での使用は、パネルが本製品に触れるおそれがあり危険です。火災の原因になりますので、ドアパネル付近での点火や使用はおやめください。
- 周囲に引火のおそれのある物を置かないでください。
- 本製品上方にガスランタンなど設置しないでください。
- 本製品の燃焼筒上部からは、高温の熱気が出ていますので、鍋などを載せて使用してください。



〈可燃物との距離〉



禁止

水平でない場所、不安定な場所での使用は禁止

- 傾斜した場所や振動の激しい所では、使用しないでください。対震自動消火装置が誤動作することがあります。
- 地面に置く際は、石などを取り除くなどして整地し、水平状態をつくり、しっかりしたじょうぶな地面にした上で使用してください。
- 10cm以上高く伸びた草花は取り除き、引火しないようにしてください。
- 不安定な台の上で使用しないでください。転落したり、火災になるおそれがあります。



使用禁止

雪上での使用や降雪時の使用は禁止

- 雪上では使用しないでください。転倒のおそれがあり危険です。
- 降雪時はシェルター・2ルームシェルターに負担がかかり、シェルター・2ルームシェルターが破損し、引火のおそれがあり危険です。降雪時は絶対に使用しないでください。



使用禁止

高地(1300m以上の場所)では使用禁止

- 高地では酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。



使用禁止

シェルター内で2台使い禁止

- シェルター内で使用できる台数は1台限りです。
- その他の燃焼器(KH-001シリーズ等)との併用も不可です。

いずれか1種を1台のみ使用可



シェルター



2ルームシェルター



本製品



シェルター/2ルームシェルターで使用可能なその他燃焼器(KH-001シリーズ等)



禁止

注意 (CAUTION)

移動・運搬時の注意

- 車両での運搬時は、⑪ 保管 を参照して油タンクの灯油を抜いてください。運搬の途中で灯油がこぼれて周囲を汚す恐れがあります。



指示

不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

スノーピークユーザーサービス

☎0120-010-660 (9:00~17:00)

Email: userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク

〒955-0147 新潟県三条市中野原456

Tel. 0256-46-5858 Fax. 0256-46-5860

www.snowpeak.co.jp